

会議概要（要点記録）

1	会議名	南あわじ市子ども・子育て会議（第17回）
2	開催日時	平成31年4月22日（月）午後3時00分～午後17時00分
3	開催場所	南あわじ市役所第2別館 第5会議室
4	出席者	<p>&lt;委員&gt; 南あわじ市子ども・子育て会議 委員11人（2人欠席）</p> <p>&lt;事務局&gt; 子育てゆめるん課長、同副課長2名、同係長2名、同主査1名</p> <p>&lt;オブザーバー&gt; 福祉課長、健康課長、教育総務課長、学校教育課長、体育青少年課長、アシスト株式会社</p>
5	配付資料	<p>・第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果報告書</p> <p>・第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画策定業務年間スケジュール表（案）</p>
6	会議の概要	<p>1. 開 会 子育てゆめるん課長が開会</p> <p>2. 議 題 戸江会長が挨拶後議事進行</p> <p>（1）第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた保護者アンケート調査結果について</p> <p>（2）その他</p> <p>3. 閉 会 宮野副会長が閉会</p> <p>以下「2 議題」以降の要旨</p> <p><b><u>議題（1）</u></b></p> <p><b><u>第二期南あわじ市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた保護者アンケート調査結果について</u></b></p> <p>（会長） 事務局からまず説明いただき、質問や意見を伺いたい。</p> <p>（事務局） 前回、第16回の会議において協議していただいたアンケート調査の結果の報告について、アシスト株式会社の西村様より。</p> <p>（アシスト株式会社、以下アシスト） 調査の趣旨、調査の設計、調査票の配布と回収、報告書の見方、グラフの見方、調査結果、自由回答、課題について説明。</p> <p>（会長） 委員は事業計画策定に係る意見や感想を第2章から自由に。9、10ページの要点も参考にしながら。</p>

国の調査も同じような結果が出てくるが、14 ページの予定子ども数が理想子ども数を下回る理由、やっぱりお金がかかりすぎると必ず言われる。国の資料でもそうだ。

(委員)

私もアンケートをしたが、17 ページの父親の休日の家事・育児の時間が思ったより少なかったと思った。

(会長)

2 時間未満。

(委員)

母親の負担が大きい。父親に「連れて行って」と頼んでも、遊び方を知らなかったりどう接していいかわからないから、すぐショッピングセンターのコインゲームに連れて行く。母親としてはコインゲームよりは体を動かして遊んでほしいが、遊ぶ場所がない。体を動かして遊ぶ場所や室内で遊べる場所がほとんどない。特に雨の日、子どもは力を持って余すので、父親に頼むとゲームになってしまうことが多いので公園の整備や室内での遊び場が欲しい。

(会長)

南あわじ市の調査はどういう子どもに調査票を配布したか。幼稚園、こども園、保育所を通じての配布だったか。

(事務局)

そうである。

(会長)

国の調査は、確か日本人の父親は家事・育児をしている時間は全世界的に一番少ない。ヨーロッパ、北欧の辺りは 3 時間 4 時間、非常に父親が参画している。その関連で公園が十分に整備されていないのではというのがあるのでそこに関連付けて。確か前回調査でもこの意見が出てきていたのでは。公園が少ないと。

(副会長)

今回整備するように出ていたのでは。

(事務局)

このアンケートの年度ではなく、今年度から「子どもの遊び場作り事業」として以前から公園が少ないという要望が多かったので小学校の校庭とゆめらんセンターの園庭を土日、祝日に開放し、子どもの遊び場として活用する事業を始めた。屋内の遊び場についてはまだ実験段階だがショッピングセンターを活用し、空き店舗の一角に市から備品、遊具を無償貸与してこの事業を開始した。

(会長)

神戸のこべっこランドは総合児童センターだが、手狭になり移動する。そんなに広くないがものすごい人が来ている。

(委員)

イングランドの丘の遊具を大きくすると聞いた。携帯用のテントやキャリーで大きな荷物を持って家族で過ごすのが一般的、定番だがイングランドの丘は禁止だ。ボールやバットも使えない。私たちのニーズとちょっと離れている。遊具もあり、更に、サッカーやキャッチボールができる広いスペースが欲しい。水遊びのスペースなども。イングランドの丘に大きい遊具を置くよりは、違う公園を活用してほしい。一番私たちが行くところは淡路島公園。みんなよく行く。そこは広い芝生があってテントを張って。ローラー滑り台やふわふわドームもあり 1 日遊べる。そういうところに視察に行ってもいい。淡路島公園はすごく人気があり、大好き。

(事務局)

付け加えてイングランドの丘が市民に無料で開放するように 4 月からなっている。

(会長)

子どもの遊び場は今いい話を聞いたが、室内にしても室外にしても計画的に作ってもらうようぜひお願いしたい。

他に。

子どもを預けて仕事をしようというのは全体的に以前より増えている。3 歳が多かった。都市部では 1 ~2 歳の親が多かったと思う。

(委員)

最近は習い事をたくさんさせているから働かなくては。

(会長)

小学校入学後は多いか。

(委員)

多い。習い事か学童保育かに振り分けられている。遊ぶことが時間的に無い。学童は校舎内にあるので、校庭の遊具を使ってもらったら良い。習い事や社会体育に行っている子どもは増えている。

(会長)

第 3 章。目立ったところや変化の大きいところ、共有したいところは。

(委員)

保育所の入所希望は無償化もあり増えてきており、利用状況を上回る希望がある。実際受け入れるには保育所の体制整備が必要と思うが、人員や職員の勤務時間の増加に伴い人件費も相当増えると思う

が、その点について市は何か支援は予定されているか。規定の分だけか。待遇の支援など。

(事務局)

ほとんど公立というのが市の特徴。助成ということは民間に対してか。

(委員)

民間も市も含めて。対応しようとするので職員や勤務時間が増える。

(事務局)

国から保育士や受け皿の確保に対しての補助は案として出てきているが、整備が追い付いていないのが現状。市としては、市（いち）の保育所を増やすので受け皿が増える。広田も計画があり、受け皿は順に増やせるが、10月からの保育料無償化が始まるので更に潜在的に保育を希望する人が出てくる心配がある。

(委員)

保育の条件はいろいろあるので、該当するかは別だろう。

(事務局)

一番の心配は国の無償化により全国的に保育ニーズが高まり、保育所に預けたい保護者が更に増えた場合、待機児童が特に都心部に集中すると思われる。田舎は保育士の確保が難しいという懸念を持っている。受け皿については未満児がほとんどだが、今後どれだけ確保していくべきかの精査が必要。

(会長)

2～3歳の子どもの親が保育所に入所させる動きがたぶん強くなるだろう。3歳は幼稚園が同じように無償化になるので幼稚園にも。今でも先生が足りない状態が続いているのに、いかなものかという議論があちこちでされている。保育者の養成もしているが、今の傾向として、以前は保育所、幼稚園の先生になりたい割合が高かったが、中学生、高校生の女性では割合が停滞気味で心配している。

(委員)

働く環境が厳しい。最近はなりたくないランキングにあがることもあり心配している。働く人の環境整備が必要。

(会長)

国で学校の先生の働き方改革が出ているが、保育所も同じだろう。今特に保育士関係、社労士が入って勤務時間をきちんとしている。残業が伸びないよう工夫されている。

保育所の定員を増やしたり、新たに作るのは大変なので認定こども園化するなど、受け皿を増やさないといけないだろう。いろんな報道が出ているが、本当に無償化になるのだろうか。

(委員)

無料化の予算を職員の充実に充てる方が個人的にはいいと思う。

(会長)

今後の利用希望、その他どうか。

28 ページ、やはり 3 歳。定期的な保育事業の希望は 3 歳からが多い。無償化で 2～3 歳が増えると思う。全国的に見ても 0～2 歳というのは平均で 7～8 割の親が家庭で見ている。保育所へ、という親がおそらく出てくるだろう。

(委員)

36 ページ、ゆめるんカード。私も財布に入れているがどこが協賛店かわからない。確認したら、今まで利用していた店や近所の店もあった。少しのものだが毎日使うものなので。出すタイミングや加盟店かどうかわからない。レジに表示があれば出しやすい。アイスクリームが無料という店もあるがいつ提示するのかわからない。1 回も使ったことが無く、私もアンケートでは「使いたい」に回答した。使いやすくしてほしい。

(会長)

周知されているのに利用率が低い。

(委員)

カードの裏には子どもの年齢と名前。18 歳まで使える。

(会長)

中高生も。周知されているのに利用されていないのは再考必要。

(事務局)

協賛店へはポスターとステッカーを配布しており掲示依頼している。カードをどのタイミングでの提示かは考えなければならない。市内 60 か所で利用できる。

(会長)

「赤ちゃんおでかけ応援事業」。他市ではしていないのでは。ベビーシートの設置や親子でお出かけしやすい環境づくりなど、きめ細かい。

(委員)

子育て学習・支援センターで勤務している立場から 34 ページ。利用者が 6.7%という数字に驚いた。市としては 0 歳から就学前のお子さんをお持ちの保護者の皆様が利用できる施設ということだが、実質は保育所幼稚園に入るまでが主で幼稚園保育所に入ったら子育てには来ない。条例のとおり就学前までの子どもが来れるようにするべきか、この数字を見て思った。

4 月から、先の説明にあったように、園庭は毎日開けている。土曜のセンター内の事業も今年 11 回開催しようと計画したが、もっと必要とされるのかと感じた。先日も、これまでは平日にしていたベビ

ーマッサージを土曜日に実施してみたら、25組の家族がやってきた。父親やお兄ちゃんお姉ちゃんもやってきて兄弟は園庭で遊ぶなど、私たちの望むべく姿で実施できたので、今後もこのように実施すべきかと考えた。今後どうすべきかをこの数字を見て感じた。

(会長)

利用していない、が圧倒的に多い。市としては2歳までか。2歳以上でも構わないのか。

(委員)

入所、入園後は保育所幼稚園の先生が相談に乗ってくれるという考え。昨年度は530家族が登録、今年度4月は230家族。

(会長)

子育て学習・支援センターという「学習」という名前は、子育てを学習するという意味か。

(委員)

そうである。最初は20何年前に教育委員会主体の「子育て学習センター」を兵庫県で設立しなさい、と。その時から南あわじ市は旧4町で子育て学習センターがあった。それが合併し、福祉部に移管したこともあり「支援」にも力を入れるということで「子育て学習」「子育て支援」が合わさって「子育て学習・支援センター」となった。

(会長)

親が子どもを連れて。

(委員)

利用する方は毎日来る。9時から16時まで。お弁当を食べる部屋もある。

(会長)

「子育て支援センター」に名前変えては。学習と付くとこわばった、勉強しないといけないみたいな。

(委員)

週あたり何日開催か。

(委員)

ずっと。出前ひろばもあり、センターの職員が旧4町の公民館に出向いて毎日やっている。先日土曜日は初めてだったがたくさん来てくれ驚いた。

(会長)

これを中核センターにして、いくつか地域に作っても。きっと利用すると思う。センターの活性化を考えたい。

いつも話題になる病児・病後児、その後の進展は。

(事務局)

淡路市では夢舞台で新しい認定こども園、公私連携で病児保育を開始している。洲本市では、なのほなこども園が4月にオープンしたが病児の運営はまだ、準備に向けて進めている。南あわじ市では32年4月オープン予定の市(いち)保育所、こども園になるのだが病後児をするために施設整備を進めている。定員は3名程度予定。この地域では全く無いので、預かることができる施設が初めて誕生する。職員も看護師や専門の保育士の配置が必要。見ることができる人数が決まっているので、最低限の預かりであるが、整備を進めている。

(会長)

各市に1か所ずつですね。

一時、病児・病後児対応の医療保育士について民間で養成を、というのがあったがあまり進んでいない。養成校で力を入れているところもあるが。

他には無いか。

(委員)

学童保育から。学童でも土曜日の開所を希望する声を保護者から聞く。特に長期休暇に多い。平常時は意外と少ない。休暇中は一つ二つの学童を開所して、そこに集結させて開所する方法も考えていかないといけないかと感じている。

(会長)

59ページ。特に夏休みは大きいですね。

夏休みの時間帯は。

(委員)

8時18時。学童は18時までなので、お母さんが残業で迎えが間に合わないため、子どもに無理をさせて留守番させている家庭もあると感じる。

(会長)

支援員の勤務をうまく調整して、19時はどうか。都市部は大体19時まで。確かに18時ではちょっとというところが。

(委員)

長期休暇中の利用は通常より少ないのか。

(委員)

逆に多くなる。

(会長)

全て小学校内にあるのか。

(委員)

北阿万の1か所だけ公民館。

(委員)

学校に場所が無かった。市(いち)は児童数が増えたので新しく作った。

(会長)

支援員の研修体制も充実させようと、以前にも課題にあがっていた。支援員の数が少ないという意見もあった。

南あわじ市は国の規定で配置しているのか。

(オブザーバー)

その通り。15人以上で2人。今度緩和されるので1名でも構わないということで対応される。

(会長)

15人で1人は大変ですね。

(オブザーバー)

現実的にどうかはまた違うが、人材確保が地方は難しいというところでそういう措置に。

(会長)

学生を使ってはどうか。保育を勉強している大学生。比較的狭いところで走ったりするからよく怪我をすると聞いているが。

(オブザーバー)

学生は難しい。

(会長)

緩和策が出ているようだが、南あわじ市では規定通りの人数でできるだけしてほしい。

4年生以上も利用は少ないが増えると思うので対応が必要だろう。

第4章育児休業。相変わらず父親の育児休業は非常に低い。0.7。全国的にもそう。母親の方は「取得した」「これから」という割合は増えている。今は企業もほとんど育児休業制度はできているのか。

63ページ。就学前で阿那賀地区が特に高いのは理由があるのか。母数が少ないからか。目立っていたので。

第5章ではいかがか。公園は初めに説明してもらった、遊び場確保ということで充実させようとしている。保育士の人数を増やしてほしい、学童の支援員の資質を高めてほしい。学童保育の高学年の



受け入れを望む声について、低学年優先と打ち出しているのか。

(オブザーバー)

無いが、定員があるため超えた場合は低学年を優先せざるを得ない。

(会長)

増えてきたら定員を見直す必要が出てくるかも。

68 ページに「南あわじ市で行っている子育て支援施策をもっとPRして」と。以前から子育てしやすい、子どもを産みやすいまち、というのを目標に進めているので、親が感じてくれているのは非常にうれしい。

(委員)

69 ページ、延長保育が2か所だけ。働く場所によって、他のところでもしてほしいと思うが、そこは改善されないのか。

(事務局)

今は市(いち)と神代でしているが、保育士の処遇改善や不足があるので、なかなか時間延長できないのが現状。

(会長)

意見としてはどの保育園も7時半から18時半まで預けることができるようにしてほしいと。全ての保育所で延長保育の体制を願うということ。

(委員)

南あわじ市だけだと思う。洲本市も淡路市もすべて早出遅出があると思う。

(会長)

国の規定では短時間が8時間、標準時間が11時間。8時開始で19時まで。働く人のニーズに合わせて、再検討していただくという意見。

次の事業計画に向けてもっと精密に見ていくことになると思うが、他はどうか。次に向けての意見として、考慮いただけたらありがたい。初めの要点としてうまくまとめられていたかと思う、これを基本にして次の支援事業計画の策定に向けて考えていきたい。

## 議題(2)その他

(事務局)

年間スケジュール表(案)として配布している資料を。通常、子ども子育て会議は年に2回開催していたが、今年度については計画の策定があるので、あと4回ほど予定している。次回は6月の下旬を予定。調査結果に基づき、各種事業の量の見込み推計結果の報告、教育・保育提供区域の検討、計画

構成案の提示を行う。2回目は10月初旬、各種事業の量の見込み推計の補正・確保方策、計画素案の提示。3回目は12月の頭、計画素案の提示、4回目は2月初旬にパブコメ意見の報告、計画最終案の検討・承認を計画している。

次回の開催日についての協議を。

⇒次回7月9日（火）の13：30から。

（会長）

今日はありがとうございました。ご意見を生かせるような形で次の支援計画を考えていきたい。

### 3 閉会

（副会長）

長時間にわたり、意見をいただいた。

次回7月もご協力を。ありがとうございました。